

がんセンターだより

No.3



発行：2021年3月



岩手医科大学附属病院の風景

目次

- ▶ がん診療連携室の紹介
- ▶ 第13回岩手県がんフォーラム開催報告
- ▶ がんゲノム検査（がん遺伝子パネル）の紹介
- ▶ がんサロンだより

がん診療連携室の紹介

がん診療連携室長
泌尿器科 教授

小原 航



がん診療連携室は、がん患者様やご家族に対して、当院と地域の医療機関との連携をスムーズに行うことを目的として、患者サポートセンター内の地域連携部門が担当しております。主な業務として以下の3点を行っております。

1. 紹介患者様の受付

当院のがんに関する診療は、診療科によって初診が内丸メディカルセンターもしくは岩手医科大学附属病院と異なっておりますが、手術・化学療法・放射線治療については岩手医科大学附属病院にて治療を行っております。当院を受診ご希望の方でかかりつけ医がある場合には、スムーズな診療を行うため事前に診療情報提供書を送付いただきますようお願いいたします。なお、岩手医科大学附属病院は完全予約制となっております。

2. セカンドオピニオンの受付

当院ではセカンドオピニオンを受付しております。セカンドオピニオンとは、患者様が現在治療を受けている病気や治療内容に対して、主治医以外の専門医の意見を聞き、患者様が最良の治療方法を選択する際の手段として役立てていただくものです。

保険診療ではなく、自費による診療となりますがご希望の方は当室宛にお電話をいただきますようお願いいたします。

また、当院で診断、治療方針を提示されている方で、他の医療機関の意見も聞いてみたいという場合にも、ご希望先の医療機関と連携を図りながら受診のお手伝いをさせていただいております。

3. がん地域連携パスの受付

当院では地域連携パス（胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん）を取り入れ、地域の医療機関との連携を密にした地域完結型医療の実現を目指しております。パスを利用することで地域のかかりつけ医の先生方と当院とが協力して情報交換を行い、患者さんの視点に立った、安心で質の高い医療を提供することができますので、利用を希望される場合には主治医にご相談ください。

第13回 岩手県がんフォーラム

～ 最新のロボット手術を正しく理解するために ～

令和2年11月28日（土）盛岡市内にて、岩手県、岩手県がん診療連携協議会、がん患者団体、岩手日報共催による「第13回岩手県がんフォーラム」を開催しました。本フォーラムでは、次世代のがん治療として期待される「ロボット手術」について、ロボット手術を担う専門の医師による「ロボット手術の現状と今後の課題について」をテーマに講演・パネルディスカッションを行い、最新のロボット支援手術の有用性について議論いたしました。

● ロボット支援手術（ダ・ヴィンチ）とは

正式には、「ロボット支援下内視鏡手術」といい、手術支援ロボットを使って、医師が手術を行う術式をいいます。ダ・ヴィンチはアメリカで開発された臨床用機器で内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、高度な内視鏡手術を可能にします。

第1部の基調講演では「呼吸器外科領域におけるロボット支援手術」をテーマに藤田医科大学（愛知）医学部呼吸器外科星川康先生によるリモート講演がありました。（写真1）日本の5大がんの一つとされる肺がんの治療法には、がんの広がりによって治療法の選択に手術による切除があります。星川先生は精度の高いロボット支援手術に取り組んでおり、2020年には日本呼吸器外科学会認定ロボット支援手術プロクター（手術指導医）を取得し、高精度で、体にやさしく、痛みの少ない手術を発展させ高齢者や併存疾患をもつ方にやさしい呼吸器外科診療を実施しております。



第2部のパネルディスカッションでは「ロボット支援手術の現状と今後の展望」として座長に岩手医科大学医学部 呼吸器外科講座教授の齊藤元先生（写真2）、パネリストに藤田医科大学医学部 呼吸器外科 星川康先生、岩手医科大学医学部より泌尿器科学講座 教授 小原航先生、産婦人科学講座 教授 馬場長先生、外科学講座 准教授 大塚幸喜先生、呼吸器外科講座 准教授 出口博之先生、呼吸器外科講座 特任准教授 友安信先生の先生方（写真3、4）で豊富な経験に基づく精度の高いロボット支援手術の紹介、今後の展望など議論いたしました。また、2012年に前立腺がん、

2018年に消化器外科、婦人科、呼吸器外科、2020年に膵臓がんや食道がんのなど一部の術式に保険適用対象が拡大され、年々実施数も増えてきております。ロボット支援手術は“最先端治療”から“標準治療”に移行しつつあります。

県民の皆様から寄せられた質問コーナーにはロボット手術のメリット、費用や保険適用についてなど、たくさん寄せられており、関心の高さがうかがわれました。



がんゲノム検査(がん遺伝子パネル)の紹介

■ がんゲノム(がん遺伝子パネル) 検査って何？

これまでのがん治療は、大腸がん、乳がん、肺がんなど、がんになった臓器の種類で概ね決まっていた。しかし最近では、がんの種類よりも遺伝子の変異の方が治療選択の根拠となることがわかってきました。

がんゲノム医療では、患者さんのがん細胞特有の遺伝子変異に基づいて治療を行うものです。当院では、主に治療中のがん患者さんを対象に、がんゲノム医療を提供する検査として「がんゲノム(がん遺伝子パネル) 検査」を行っております。

当院で行っているがんゲノム検査

	保険診療		自費診療
検査	FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル	OncoGuide™ NCC オンコパネルシステム	Guardant360
検体	腫瘍検体 (FFPE) *	腫瘍検体 (FFPE) * 血液検体	血液検体
費用	56 万円 (1 ~ 3 割自己負担) 高額療養費制度が適応となります		約 42 万円

*手術あるいは生検で採取されて作製したホルマリン固定パラフィン包埋標本

■ 保険診療の対象となる方について

- ▶ 原発不明がん、希少がん、標準治療が終了（終了が見込まれる）された方
- ▶ 全身状態及び臓器機能等から、本検査施行後に化学療法の適応となる可能性が高いと主治医が判断した方。

患者さんの病態、検体の状態などから、最終的にがんゲノム医療担当医が検査可能かどうか判断します。適応外と判断した場合でも、患者さんが当検査を強く希望される場合は、自費診療の検査をご提案させていただきます。

■ 検査の前に知って頂きたいこと

- ▶ がんの診断や治療に有用な情報が、何も得られない可能性もあります。
- ▶ 遺伝子変異があっても対応するお薬がなければ治療へは進めません。対応するお薬が保険適応外の場合、治療が全額自己負担になる可能性があります。
- ▶ 対応するお薬があっても承認状況や治験により治療を受けられない場合があります。
- ▶ 対応するお薬の投与を受けても効果があることを保証するものではありません。
- ▶ 検査が実施されなかった（中止になった）場合でも、決められた費用はお支払いいただくことになります。
- ▶ 遺伝性腫瘍（生まれつきがんに罹りやすい体質）の遺伝子の変異がわかることがあります。ご家族や血縁者に関わる情報ですので、この検査結果を知りたいかどうかを伺っています。また、当院で遺伝カウンセリングを受けることができます（自費診療）。

■ 検査の流れ・費用について

1. 検査説明・検査

適応条件を満たしているか確認いたします。（面談費用 11,000 円（税込）／30 分）

検査可能で、検査を希望される場合は、検査同意書に署名を頂きます。

保険診療の場合：会計 80,000 円（例：3 割負担 24,000 円）

自費診療の場合：会計 409,200 円（税込）

※自由診療の場合は、先に一括でお支払い頂きますので、結果説明の際には、お会計ございません。

～ 結果をお知らせできるまで1ヶ月半～2ヶ月かかります ～

2. 結果説明

保険診療の場合：会計 480,000 円（3 割負担の場合 144,000 円）

自費診療の場合：会計無し

※説明時は、できるだけご家族の同席をお願いいたします。

お問い合わせ先

岩手医科大学附属病院がんセンター がんゲノム室（病院総務課内）

電話 019-613-7111 内線 6039



国際小児がんデー

がん患者・家族サロンでは、国際小児がんデーの啓発キャンペーンに賛同し、小児がんに対する理解と支援の輪が広がることを目的として、2月を中心にゴールドリボンツリー展示と小児科病棟の子どもたちの描いた絵の作品展を開催いたしました。

笑顔で描いてくれた子どもたちの絵には、いろんな思いが詰まっており、どれも可愛くてステキでした。



おねえちゃんと
遊びたい

100 均に
いきたい

ケンタッキーを
食べたい

子どもたちの願い

お出かけしたい

にいにいと
たくさん遊びたい

お寿司を
食べたい



病棟で頑張っている2歳～15歳の子どもたちが、自分たちで考えて描いてくれた1枚の絵。夜空に現れた奇跡の虹。ハワイや日本でも月明りで見えることのある「奇跡の虹」の存在を知らない子どもたちが偶然考えた絵です。希望に向かって進んでいく子どもたちの気持ちを感じていただけたら幸いです。(病棟保育士)



看護学部3年生の実習がありました。

岩手医科大学看護学部3年生が、がん患者・家族サロン（以下「がんサロン」）で見学実習を行いました。

がんサロンってどういうところ？利用方法は？どんな相談があるの？など、看護師の大先輩である専従スタッフにレクチャーしてもらいました。

また、学生たちはがんサバイバーのボランティアさんによる心のこもった寄贈品を手に取り、患者さんの気持ちに沿った作品の数々が無償で提供されていることや、その精度の高さにとても感心しておりました。

この実習が未来につながる経験になることを願います。



今年度の寄贈について



タオル帽子（ホスピスの会） 103 個



コットン帽子（アイリスの会、虹の会）... 227 個

ニット帽子（うさちゃん） 100 個

まけないゾウ 195 個

50 羽鶴ストラップ 79 個



他、有志の方からアイディア帽子、折り紙作品、ウィッグ、マスクなど 600 個以上ございました。治療中のがんの患者さんにお渡ししております。



寄贈してくださった皆様、本当にありがとうございます。お礼が直接できない患者さんに代わり感謝のお礼を申し上げます。

院内のがん相談窓口

■がん相談支援センター

がん相談支援センターは、がん患者さんやご家族だけでなくどなたからのご相談も、面談または電話により無料でお受けしております。専門の相談員が対応しますので、心配なことがありましたら、どんなことでもご相談ください。

お待たせすることもありますので、あらかじめ日時をお約束をすることをおすすめいたします。



019-611-8073 (直通)

平 日 (月～金) 9:00～16:00 第1・第4土曜日 9:00～12:00

岩手医科大学附属病院 1階 患者サポートセンター内



■がん患者・家族サロン

がん患者・家族サロンは、「がん患者さんや家族同士で気軽に不安や悩みを語り合い、元気になる場所が欲しい」という患者さんの声から生まれました。専任スタッフが話を伺わせていただきます。

019-613-7111 (内線 3222)

平 日 (月～金) 10:30～16:30

岩手医科大学附属病院 東エレベーター 2階 20番



がんに関する冊子や書籍の他、治療に伴う脱毛対策としてのウィッグやタオル帽子・コットン帽子のことなど、様々な情報を提供しております。

がん患者・家族サロンホームページ

<https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/hospital/gancenter/salon/index.html>

～一人で悩まずに、あなたの不安やつらさをお話してください。～

編集後記

がんセンターだより No.3号を最後までお読みくださりましてありがとうございます。この一年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、私たちの生活は一変いたしました。例年通りにいかないことが多く戸惑うことばかりですが、今後とも質向上に努めて参りますので、引き続きよろしく願いいたします。